

もっと、あなたに響くこと。

J:COM



News Release

平成 29 年 10 月 24 日
大分市
大分ケーブルテレコム株式会社

ホルトホール大分の施設命名権取得に合意 通称は「J:COM ホルトホール大分 (J:COM HorutoHall OITA)」に決定

大分市(市長:佐藤 樹一郎)と大分ケーブルテレコム株式会社(本社:大分県大分市、代表取締役社長:中谷 博之)は、大分市が所管する「ホルトホール大分」のネーミングライツ(施設命名権)を大分ケーブルテレコムが3年3ヶ月間取得することについて合意し、契約を締結しました。これにより、ホルトホール大分は、平成30年1月4日から、大分ケーブルテレコムのブランド名称(J:COM)を冠した、「J:COM ホルトホール大分(J:COM HorutoHall OITA)」となります。大分ケーブルテレコムが公共施設のネーミングライツを取得するのは今回が初めてです。

ホルトホール大分は、「人と文化と産業を育み、創造、発信する新都心拠点」という基本構想の下、複合文化交流施設として、大分市のシンボルロード「大分いこいの道」に面して建設され、平成25年7月20日にオープンしました。開館以来、市内外から約200万人の方々にご利用いただいております。大分市を代表する施設として市民に親しまれています。大分ケーブルテレコムは、ホルトホール大分の基本構想に賛同し、同施設を有効活用することで地域貢献に努めるとともに、市民が集い、憩い、学び、交流する場に大分ケーブルテレコムのブランドを掲げることで、企業理念「もっと、心に響かせよう。もっと、暮らしを支えよう。明日を、未来を、拓いていこう。」の体現化を目指します。

大分市と大分ケーブルテレコムは今後も協力し、ホルトホール大分の施設及び大分いこいの道の魅力と、大分ケーブルテレコムのエンターテインメントやインターネットをはじめとした生活支援サービスと、地域メディア「J:COM チャンネル大分」*¹により、地域のにぎわい創出とコミュニティや文化交流の活性化を図り、大分市の更なる発展に貢献してまいります。



<J:COM ホルトホール大分(J:COM HorutoHall OITA)の外観>

*¹ 地上111chで放送。大分ケーブルテレコムのサービスエリア(大分市、津久見市、一部を除く由布市)で視聴可能

通称	J:COM ホルトホール大分(J:COM HorutoHall OITA)
所在地	大分県大分市金池南一丁目5番1号
契約期間	平成30年1月4日～平成33年3月31日
ネーミングライツ料	6,500万円(消費税及び地方消費税を含む)／3年3か月間

大分ケーブルテレコム株式会社について <http://www.jcom.oct-net.ne.jp/>

大分ケーブルテレコム株式会社(本社:大分県大分市)は、大分県下11自治体でケーブルテレビ、インターネット、固定電話、モバイル等を提供しているケーブルテレビ事業者です。株式会社ジュピターテレコム(J:COM)のグループ局として、先進性のある高品質な情報・エンターテインメントの提供を通じ、地域社会の発展に寄与することを目指しています。また、「J:COM チャンネル大分」(地上111ch)、「ホルトチャンネル」(地上121ch)で地域情報番組を放送しています。